

海洋研究開発機構 JAMSTEC 見学記

(Japan Agency for Marine-Earth Science and Technology)

1 はじめに

資源工学部会の平成 30 年度の見学会は去る 5 月 16 日（水）に海洋研究開発機構で行われた。天候は快晴に恵まれ、一行 17 名は東京駅丸の内南口に集合し、マイクロバスで神奈川県横須賀本部まで約 1 時間の小旅行を楽しんだ。

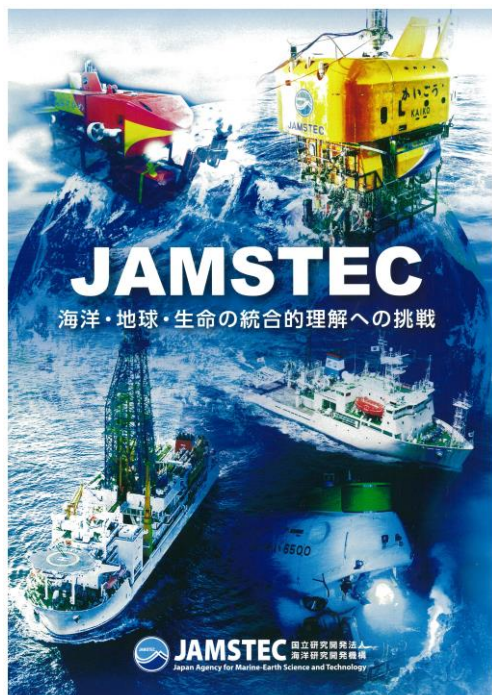


図 1 JAMSTEC パンフレットより



図 2 JAMSTEC の主な研究設備パンフレットより

2 海洋研究開発機構 JAMSTEC

「国立研究開発法人海洋研究開発機構」は 2015 年 4 月に「独立行政法人海洋研究開発機構」から名称を変更した。この施設は海洋研究開発および関連する分野の研究開発のために設置された研究所で日本最初の深海潜水艇を始めとして、国際地球観測プロジェクト推進のための研究船などを運用している。また、無人探査機等も開発し運用している。スーパーコンピュータで、一時期計算速度世界一となった地球シミュレーターを運用するほか、大陸棚に存在するメタンハイドレート・海底熱水鉱床・石油・天然ガスなどの資源に対する基礎研究を進めている。



写真 1 JAMSTEC 玄関前にて
記念撮影

3 有人潜水調査船「しんかい 6500」

世界有数の有人潜水調査船「しんかい6500」は船名の通り、深海6500メートルまで潜れる有人潜水船で世界に7隻しかない、大深度まで潜れる有人船のひとつ。1989年に完成し、日本近海や太平洋、インド洋で1500回以上潜航してきた。

最大潜航深度：6,500m

定員：3名

全長：9.7m

空中重量：26.7t



写真2 しんかい6500（実機）前にて説明



写真3 しんかい6500 視窓とマニピレータ

4 高圧実験水槽装置



写真4 高圧実験水槽装置

水深 14,000m 相当水圧

この設備は水深約 14,000m に相当する圧力までの深海環境を再現し、各種深海機器、各種材料に対する疲労試験、耐圧試験および作動試験等の実験ができる。

本体水槽内有効寸法 内径：約 1.4m×高さ：約 3m

試験体収納カゴ有効寸法 内径：約 1.2m×高さ：約 2.7m



写真5 高圧実験水槽装置（JAMSTEC HP より）

5 おわりに

今回の見学では、当機構が構築している海洋フロンティアを切り拓く研究基盤のエッセンスを吸収でき充実した見学会であった。

最後に今回の見学にあたり、熱心な説明を頂きました広報部広報課見学担当大矢様、鈴木様、企画調整グループの加賀谷様、環境影響評価研究グループリーダー福島様及び見学先訪問に際してお世話いただいた日本技術士会奈良専務理事の皆様へ深く感謝申し上げます。

（参加者 17 名、順不同、敬称略）

（資源工学）境大学、仁多英夫、堀昭博、田中宏史、水野正勝、辛島洋士、米田直司、（電気電子）高木正俊、（機械）白石憲克、田中滋、荒野てつや、（繊維）松田みゆき、（建設）吉田倫夫、齋藤寛、丸山治、（経営工学）上杉豊、（化学）白瀬仁士。

境 大学（さかい だいがく）

技術士（資源工学部門）

日本技術士会 理事

研修委員会副委員長

国際資源開発研修センター

e-mail:daigaku.s6703@gmail.com

